



平成 28 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社ロジコム
代表者名 代表取締役社長 本 庄 良 一
(JASDAQ・コード 8938)
問合せ先 管理部総務セクションマネージャー 中村 真一
(TEL 042-565-2111)

営業外収益、特別損益及び繰延税金負債の計上並びに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期累計期間において、下記のとおり営業外収益、特別損益及び繰延税金負債を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

また、本営業外収益、特別損益及び繰延税金負債の計上を含め、最近の業績動向等を踏まえ、平成 27 年 10 月 29 日に公表した平成 28 年 3 月期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

1. 連結業績における営業外収益（持分法による投資利益）の計上について

当社は、平成 28 年 2 月 22 日付「第三者割当による新株式の発行、株式会社ダヴィンチ・ホールディングス株式の取得及び資本業務提携並びに主要株主の異動に関するお知らせ」及び平成 28 年 3 月 11 日付「株式会社ダヴィンチ・ホールディングス株式の取得完了に関するお知らせ」により公表いたしました株式会社ダヴィンチ・ホールディングス株式の取得により、同社を持分法適用関連会社とし、これに伴い発生した負ののれん相当額を、持分法による投資利益 181 百万円として営業外収益を計上することといたしました。

2. 連結業績における特別利益（収用補償金）及び繰延税金負債の計上について

当社は、平成 27 年 2 月 17 日に公表いたしました「連結子会社における物件移転補償金の収受に関するお知らせ」のとおり、当社の連結子会社であるロジコムリアルエステート株式会社が運営しております複合商業施設「LCワールド本巣」の敷地内の一部が土地収用対象となったことによる物件移転補償金の収受により、収用補償金 1,378 百万円として特別利益を計上することといたしました。

また、これに伴い繰延税金負債を計上、法人税等調整額 385 百万円を繰入することといたしました。

3. 特別損失（減損損失）の計上について

当社は、個別業績として、当社の保有する事業用資産において収益性の低下がみられたため「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 101 百万円として特別損失を計上することといたしました。

また、事業用資産である「LCワールド本業」に収益性の低下がみられたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失 190 百万円として特別損失を計上することとし、連結業績としては合計 292 百万円の減損損失を計上することといたしました。

4. 業績予想の修正

(1) 修正の内容

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	6,500	500	△250	1,000	422円32銭
今回修正予想(B)	6,885	216	△360	1,214	507円78銭
増減額(B-A)	385	△283	△110	214	
増減率(%)	5.9	△56.6	—	21.4	
【ご参考】前期実績 (平成27年3月期)	6,486	363	33	321	135円73銭

平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	4,900	100	10	400	168円93銭
今回修正予想(B)	4,941	131	78	79	33円12銭
増減額(B-A)	41	31	68	△320	
増減率(%)	0.8	31.7	682.4	△80.2	
【ご参考】前期実績 (平成27年3月期)	5,093	241	180	107	45円31銭

（注）2015 年度(第 24 期)より会計方針の変更を行っており、上記各表の【ご参考】平成 27 年 3 月期の実績は、遡及修正適用後の数値で記載しております。

(2) 修正の理由

（個別）

個別では、サブリース事業における高い稼働率の維持と、不動産ファンド案件における仲介手数料収入等により、売上高及び営業利益は予想を上回る見込みとなり、これに加え下期に取引を予定しておりました不動産売却案件が実現せず関連経費が発生しなかったこと等により、経常利益が予想を上回る見通しであります。

しかしながら、不動産売却により見込んでいた固定資産売却益（特別利益）が実現しなかったこと及び第 3 項記載の減損損失の計上により、当期純利益は予想を下回る見通しであります。

(連結)

連結業績につきましては、当社及び連結子会社における事業活動は堅調に推移し、売上高は予想を上回る見込みとなりました。

しかしながら、不動産ファンド事業における関連経費2.9億円の増大、一部不動産ファンド物件のリーシング未達による賃借料0.5億円の負担増等により営業利益は予想を下回る見込みであり、経常利益については、第1項記載の営業外収益はあったものの、不動産ファンド事業において連結子会社化した複数の特別目的会社（SPC）における資金調達費用及び借入利息を計上したことにより、予想を下回る見通しであります。

また、個別業績の影響や第3項記載の減損損失の計上があったものの、上半期に計上した米国子会社による固定資産売却益及び不動産ファンド案件のノンリコース化に際しての固定資産売却益、第2項記載の特別利益の計上等が寄与し、親会社株主に帰属する当期純利益は予想を上回る見通しです。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上